

エジプトの 祝祭日



前号に引き続き、エジプトの祝祭日について調査しました。冬号では12～2月の祝祭日を紹介します。今年度の春号からエジプトの祝祭日をご紹介しますでしたが、今回がいよいよ最終回です！

日付	曜日	祝祭日名称（日本語）	祝祭日名称（英語）
1月7日	水曜日	コプト教クリスマス	Coptic Christmas Day
1月25日	日曜日	1月25日革命記念日	25 th of January Revolution

（ジェットロのエジプトの祝祭日からお借りしました。）

コプト教クリスマス(Coptic Christmas Day) -1月7日



エジプトでは人口の約10%がキリスト教徒と推定されており、その大多数がカイロに集中しています。教徒たちはコプト教の伝統に従ってクリスマスを祝います。

コプト教のクリスマスの特徴は、キリストの生誕の日を12月25日ではなく1月7日に祝うことです。



キリスト教を信仰する多くの地域、教派において、クリスマスは古代ローマ歴のうち「グレゴリオ暦」の冬至に合わせてキリストの生誕を祝います（因みにキリストの誕生日自体は不明だそうです）。一方で、中東、ギリシャ、東ヨーロッパや小アジアなどに存在する、いわゆる東方教会では「ユリウス

暦」という暦に基づいてクリスマス祝います。「グレゴリオ暦」と「ユリウス暦」には13日のズレがあるため、12月25日から13日後の1月7日がエジプトのクリスマスとなります。またクリスマス前には断食の期間があり、通常1週間、または信仰心の厚い教徒は11月25日から断食をします。

聖家族の逃避ルート（イエス・マリア・ヨセフの三人が、迫害を恐れてパレスチナからエジプトへ逃避した際通ったルート）沿いの教会では独自の祝賀行事が行われます。主なものでは、カイロの聖マルコ大聖堂でコプト教皇が司式し、国中にテレビ中継されます。

1月25日革命記念日(25th of January Revolution) -1月25日



2011年より、エジプトの国内外において発生した大規模な反政府デモとそれに付随する事件の結果、当時のホスニー・ムバーラク大統領が辞任に至った革命です。チュニジアにおいて長期政権を倒したジャスミン革命を起因としてアラブ世界で巻き起こった「アラブの春」のうちの一つです。

30年の長期にわたり大統領職にあり独裁政権を維持したムバーラクでしたが、ジャスミン革命に誘発され、反発が表面化し退陣を要求するデモが繰り返されました。この騒乱によりムバーラクは退陣し、政権の長期独裁に終止符が打たれることになりました。



カルロス・ラトゥッフによる風刺漫画。ムバーラクがネットワークのプラグを引き抜いてインターネットからエジプトを遮断したが、今度はエジプトがムバーラクからプラグを引き抜こうとしている。

背景として、エジプトはムバーラク大統領の下、2000年以降に経済の自由化を推し進めました。その結果、年間5-7%の経済成長を維持し、2010年も5.3%と推測されていました。その一方で、若年層の失業率は高く、20代での失業率は2割という試算もありました。国民の約2割は1日2USドル以下で、4割以上が1USドル以下で生活しているともいわれ、物価高も不満の要因になっていました。



29年間続く非常事態宣言の中で野党関係者が政府によって恣意的に弾圧されたこともあり、人権問題の改善も訴えられていました。またムバーラクが2011年秋の大統領選挙で6選をを狙っているという観測や、次男のガマルを後継者にしようとするネポティズム（縁故主義）も問題視されてきました。

ジャスミン革命の変革のうねりがエジプトに飛び火する下地になる事件が、直前にも起こっています。2010年6月6日にアレクサンドリア出身のプログラマーであるハリド・サイドが、薬物犯罪担当警察官による麻薬の密売を告発し、インターネットを通じて警察の不正を追及したところ、警察の監視下に置かれ最終的に撲殺されたという事件です。

当局は「所持した麻薬を隠すため袋ごと飲み込んだ際に窒息して死亡した」と発表しましたが、Google幹部であったワイル・ゴネームがこの件を公表し、Facebookにおいて1月25日の反政府デモを呼びかけるページを作りました。その後、彼は秘密警察に拘束され、11日後解放されました。

なお、反ムバーラク派は「警察の日」であった1月25日をデモの日に選びました。警察がハリド・サイドを撲殺したとされたことが理由です。そのため、多くのデモ参加者が、「私たちは皆ハリド・サイドだ」と氣勢を上げ、また彼の写真を掲げ行進しました。